

3. 2017 年度活動概要

本研究会では、「大学におけるリメディアル英語授業のあり方」をテーマとし、近年の学生の多様化、低学力化の原因を探り、解決法を見つけると同時に、授業改善の方法について研究を行っている。

2017 年度は、4 月、5 月、7 月、10 月、12 月に 5 回のミーティングを開催し、また、8 月と 11 月には学会発表等を行った。さらに、12 月には第 1 回公開研究会を開催した。主な活動内容の概略を下記に記す。

(1) リメディアル英語教科書に関するアンケート調査

2015 年度より行っている「英語リメディアル教科書」についての研究を 2017 年度も継続して行った。この研究の詳細は次のとおりである。

1. 現在出版されている英語リメディアル教科書分析
2. 大学生の求める英語授業と英語教科書のニーズ分析
3. 一般英語科目を担当する英語教員の求める英語教科書のニーズ分析
4. (1-3 の結果をもとにした)本当に必要な英語リメディアル教科書の定義づけ
5. (4 の定義に基づいた)英語リメディアル教科書執筆

2016 年度までに 1 を終了したので、2017 年度は 2, 3 を実施し、全国英語教育学会第 43 回島根研究大会において研究発表を行った。

(2) 第 56 回国際大会

第 56 回国際大会では、馬場千秋が、困難な授業下での授業運営の工夫についての授業学ワークショップを行った。また、馬場千秋が授業学（関西）の村上裕美氏と教科書を用いたワークショップを行った。さらに、研究会ポスターセッションで研究会報告を行った。

(3) 英語教育セミナー

英語教育セミナーでは、林千代がモチベーションを高める授業について、杉田千香子が音読指導についての発表を行った。

(4) 第 1 回公開研究会

東京学芸大学教授の馬場哲生氏による講演「英語を不得意とする学習者への効果的な文法指導」および講師、研究会メンバー、参加者による、授業全般および指導についての悩み相談室、意見交換会を行った。

(5) 今後の計画および研究成果発表方法

2018 年度は、2017 年度に行った英語リメディアル用教科書のニーズ分析結果をもとに、教科書執筆計画を行い、執筆に入る予定である。また、第 1 回ジョイントセミナーでも、よりよい英語授業のあり方について紹介する予定である。公開研究会については、2018 年度も年 1～2 回実施し、講演および意見交換会を行い、より良い授業を行っていくための方策を検討していく予定である。